

寸言

三菱スペース・ソフトウェア株式会社
取締役社長
稲畑 廣行



宇宙・航空機産業の活性化に向けて

当社は、創業初期から50年以上に亘って、我が国の主要な宇宙開発プロジェクトに携わり、国産基幹ロケットの航法誘導ソフトウェア開発、衛星・宇宙機の地上システム開発・運用、観測衛星データの利用・解析等に参画し、宇宙分野におけるシステム開発、ソフトウェア開発を担当して参りました。

従来の宇宙産業は、成熟した産業とは言い難い状況でしたが、2015年に、新たな「宇宙基本計画」として「宇宙安全保障の確保」、「民生分野における宇宙利用の推進」、「宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化」を重点課題とし、10年間の長期整備計画が具体的な工程表と事業規模で提示されました。

これらの計画に基づき、宇宙の継続的な利用として、海洋監視等の安全保障活用、地球規模での大規模災害／気候変動／環境観測への対応、地理空間情報の高度利用による自動運転、防災・減災対応等、「利用と出口戦略を重視」したプロジェクトにより、安全・安心な社会を目指した宇宙インフラの構築が期待されます。

このためには準天頂衛星、気象・地球環境観測衛星、及び安全保障を目的とする衛星の「フライトセグメント」、それらを有効活用するデータ処理システム等「地上セグメント」、新型基幹ロケット等による「宇宙輸送システム」の3つの整備が、長期整備計画の着実な遂行によってバランス良く継続的に行われることが重要です。この宇宙インフラ整備に

よって、中／長期的展望に基づいた宇宙産業界での戦略投資が可能となり、産業基盤の維持と拡大に繋がると考えています。

また、宇宙インフラの整備により、その環境を利用したサービス産業の充実化や地上民生機器産業の拡大というサイクルが回り、ユーザー産業群の拡大と新たな宇宙利用アプリケーションの創造が行われ、宇宙産業界全体の活性化に向けた好循環が醸成することを期待しています。

当社は、最新の情報通信技術を活用し、ユーザーへの円滑なサービス提供を行うシステムの開発等により、このインフラの実現とサイクルの拡大に貢献して参ります。

なお、航空機産業でも、国産初の小型ジェット旅客機開発の大プロジェクトが進行しており、今後の航空機産業の基盤整備や裾野産業を含めた成長、拡大が期待されます。この領域でも宇宙分野等により、長年蓄積してきた高信頼性、高品質の技術を活用し、民間航空機の設計・開発・試験、整備・運用等のライフサイクルをとおした事業への貢献を図っていきたいと考えています。

当社は、今後も宇宙・航空機産業の活性化に向けた貢献、さらには我が国の安全・安心に向けた社会インフラ整備に繋がる取組の一翼を担っていく所存でございますので、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。